

促に應じ従軍せしものなるべし。

應永七年 庚辰 紀元二〇六〇

七月十一日。足利義滿、加賀の士狩野茂重に、江沼郡福田莊内狩野彦四郎の舊領を知行せしむ。

【狩野文書】

七一五

御判

加賀國福田庄内狩野彦事、所宛行狩野孫四郎茂重也。者守先例可致沙汰之狀如件。

應永七年七月十一日

（狩野茂重は福田庄菅浪郷の地頭なるべく、元弘三年六月廿五日の條に見えたる彦五郎頼廣の後にして、その次は永徳二年八月十日に見えたる加賀守忠家、その次はこの孫四郎茂重と續きたるものゝ如し。然らば即ち本文に彦四郎と記せるは忠家と同人か。）

十一月十三日。幕府、加賀守護斯波義種をして、攝津幸夜又丸代に加賀郡倉月莊等を交付せし

む。

【美吉文書】 武藏

七一六

加賀國倉月庄此内一期領主在之同國英田保内氣屋村事、早任去月十九日安堵可被沙汰付攝津幸夜又丸代之由、所被仰下也。仍執達如件。

應永七年十一月十三日

沙彌 在判

修理大夫入道殿

（斯波義種）

（至徳四年六月十五日の條参照。）

應永九年 壬午 紀元二〇六一

二月廿三日。足利義滿、山城臨川寺領加賀郡大野莊の諸公事・臨時課役等を免除し、守護使不入の地と爲す。

【天龍寺文書】 山城

七一一

臨川寺領加賀國大野庄諸公事・臨時課役・段錢・守護役等事、所免許也。早爲守護使不入之地、可令領知之狀如

件。

應永九年二月廿三日

在判

當寺長老

【臨川寺重書案文】 山城

七一一

臨川寺領加賀國大野庄諸公事・臨時課役・段錢・守護役等事、早任去年二月廿三日御判之旨、爲守護使不入之地、可被全寺家所務之由、所被仰下也。仍執達如件。

應永十年五月二日

沙彌 在判

修理大夫入道殿

六月廿三日。能登守護畠山基國、鹿島郡永光寺領に、諸公事及び守護役等の催促を停止せしむ。

【永光寺文書】 鹿島郡

七一九

能登國永光寺領諸公事并守護役等事、先立閣之訖。向後可停止催促之狀如件。

應永九年六月廿三日

在判

神保肥前守殿

八月十五日。天庵禪暉等、鳳至郡總持寺塔頭法光院の入牌その他の寺規を定む。

【總持寺文書】 鳳至郡

七一一

法光院入牌之事、御影之左者峨山直弟之尊宿之位牌外者不可立候。孫弟之長老弟也之長老并孫弟之長老可致禮處也。其餘之位牌者、皆々右方可被立候。故者、傳燈院・紹燈菴皆以如此候。妄之儀不可有候者歟。就中入牌之儀者、自門他門皆有方事也。無其子細而位牌共百餘候歟。如形就于本寺可被遺縱跡候歟。僧・比丘尼・在家皆號結緣且那而雖被入置候、田之一段亦錢之一結更不見候。雖少分於常住可被遺縱跡候者、縱雖爲百千可被入候。無其儀候者、向後可被休候歟。又御影之爲灯油々草一俵、同大豆三俵、其年出來候間者、可被遺于納所寮候。長老得分月別五百文宛、可爲每年六貫文候。每年大豆一石可被作味會候。爲開山忌二代忌無此用意候者、新命入寺之時可事缺候。常住之陪堂塩醬之事者、可爲如故候。其外者米錢可被遺於納所寮候。如此之次第、諸塔頭之庵